

■平成27年度

まちづくり推進部 地域づくり支援課 組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況【output+input】		成果分析【outcome】
				目標指標の内容 (何を)	目標の基準値 (目標設定時の状態・比較実績)	目標値 (どの水準までどうする・達成後の状態)	目標達成のための具体的方法 (具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	【現状】		①達成値・実績値 (目標の達成状況・現在の状態)	②取組・行動内容 (目標達成のために行った取組・行動)	③目標達成による成果 (目標の達成による効果・目標達成できなかった事由)
								上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と取組の予定(具体的活動・行動)			
1	地域づくり支援課	部局横断による全市一体的なまちづくりの推進	B	まちづくり推進部新体制の確立	①機能的かつ機動的なまちづくり推進部を構築し、より充実した市民サービスを提供 ②地域の個性を生かしつつ相乗的に地域の活力を高揚	①まちづくり調整会議の運営により地域局間の調整機能を確立 ②部内会議の調整力を充実させ、部内各課の連携メリットを發揮	・政策会議の運営を参考にまちづくり調整会議を開催、適宜会議運営の見直し ・部内会議を開催しながら適宜運営手法を見直し ・各局との連絡調整	・まちづくり調整会議の開催(1回) ・部内会議の開催(毎週火曜日＝都合により未開催の場合有)	・引き続きまちづくり調整会議及び部内会議を開催し、まちづくり推進部の総合調整を図っていく。	・まちづくり調整会議の開催(3回) ・部内会議の開催(毎週火曜日＝都合により未開催の場合有)	・各局との連絡調整による協議案件の整理と結果報告 ・部長及び部内管理職の日程調整と事業予算等の総合調整	・300人以上の職員を抱える大所帯としてスタートした「まちづくり推進部」の総合調整を担った。 ・今後も調整が必要であるが、「まちづくり推進部」の体制づくりが整った。
2	地域づくり支援課	ふるさと納税制度の利活用	A	ふるさと納税制度を活用した新たな応援市民への対応	①H26実績＝102件 8,162千円 ②過去最高実績 件数:102件(H26) 金額:12,863(H23)千円	①件数 10,000件(前年比98倍) ②寄付額1億円(前年比12.3倍)	・委託事業者等の選定 ・運営スキームの確立 ・横手の魅力ある特典の進呈	・委託事業者を選定し、物産団体連絡協議会及び各団体から協力を得て81種類の特典品を決定、9月1日から新たなふるさと納税制度をスタートさせた。	・寄附件数の増加に伴う調定などの事務手続きをミスなく進めるほか、委託事業者と連携しながらトラブル発生時の適切な対応を心掛ける。 ・品切れの特典品発生、これらの対策をはじめ特典品の見直しや新たな魅力ある特典開発に努める。	①件数 2,500件(前年比25倍) ②寄附額5200万円(前年比6.3倍) ※3/18現在	・委託事業者の選定にあたっての調査、協議 ・説明会を開催しながら物産団体連絡協議会及び各団体から協力を得て81種類の特典品を決定、9月1日から新たなふるさと納税制度をスタート ・寄附の調定及びワンストップ事務の手続き、及び委託事業者と連携しながらトラブルへの発生時に対応 ・市民応援制度登録者へfun通信を送付	・特典品を通じて市内物産の流通推進やPRが図れた。 ・応援市民として約600人の登録を得て、fun通信の送付などにより交流人口の拡大が図れた。 ・寄附額が前年度より大幅な増額となり、次年度以降の各事業実施に充当可能となった。
3	地域づくり支援課	地域伝統芸能全国大会の成功	B	①出演者等 ②観客数	①メイン会場 ・秋田ふるさと村ドーム劇場(客席数997席) ②サブ会場 ・秋田ふるさと村お祭り広場&富士見大通り	①出演者等 1,000人 ②観客数 30,000人	・県及び関係団体等との綿密な打ち合わせにより、きめ細かなスケジュールを作成 ・庁内の明確な役割分担及び打ち合わせを徹底 ・イベントの魅力アピールした啓発活動の実践	・定例会議(4回)開催 ・連絡会議＝よこてイーストまつり、横手駅西口祭ほか調整会議＝(3回) ・各会場準備の細部打ち合わせを多数開催 ・市内各地域で行われたイベントにおいてチラシの配布等を行ったほか、横手かまくらFM等独自番組を企画。	・スタッフ説明会をはじめとした最終打ち合わせ。各担当業務の最終確認と大会当日の備え。 ・各会場への訪問者に対するおもてなしを徹底。	①出演者等 783人 ②観客数 25,756人	・定例会議(5回)開催 ・連絡会議＝よこてイーストまつり、横手駅西口祭ほか調整会議＝(4回) ・各会場準備の細部打ち合わせを多数開催 ・市内各地域のイベントでチラシ配布等を行ったほか、市独自の広報紙の作成及び横手かまくらFMで独自番組を放送 ・会場毎にスタッフ会議を開催	・全国規模の大会であり、コンベンションに寄与できたほか横手市を大いにPRできた。 ・横手駅改札口の総合案内窓口、県内のご当地グルメ屋台の設置、無料循環バスの運行等により満足度の高いおもてなしを提供できた。 ・よこてイーストまつりと横手駅西口祭のイベントとタイアップしたことにより、互いの事業のボリュームアップにつながった。 ・国内外及び市内団体も多数出演するなど、地域伝統芸能の保存・継承意識の醸成につながった。
4	地域づくり支援課	地域づくり協議会及び地区会議の在り方の検証	B	協議会と地区会議の役割、機能、組織の在り方の明確化	①地域づくり協議会 8地域 ②地区会議 36地区	①これからの時代に対応した地域づくりの組織体制、支援制度の設計 ②地域間交流の促進と連携による一体感の醸成	・協議会、地区会議との協議、調整 ・第2期地域づくり計画の推進 ・元気が出る地域づくり事業の推進 ・いきいき地域づくり支援事業の推進	・各地域づくり協議会へ出席(第1回目)したほか、各事業を推進した。 ・地域づくり協議会及び地区会議に関する担当課長・担当者会議の開催(1回)	・地域づくり協議会及び地区会議に関する担当課長・担当者会議を開催 ・各事業の評価、検証	①新たな地域づくりの組織体制、支援制度の素案作成 ②地域づくり協議会委員全体研修会の開催(1/23) ③地域コミュニティ創造セミナー開催(5/29)	①新たな地域づくりの組織体制、支援制度の素案作成 ・地域づくり協議会及び地区会議に関する担当課長・担当者会議の開催(3回) ・公民館担当者等との協議(2回)・まちづくり推進部内会議検討(4回)	・新たな地域づくりの仕組みへ向けて多様な議論が交わされ、素案作成という糸口を見出した。 ・交流研修会やセミナーの開催により、地域づくりへの取り組みヒントや動向を確認できた。
5	地域づくり支援課	男女共同参画の推進	B	横手市男女共同参画計画(第3次)策定と計画的な意識啓発	①新計画の策定、完成 ②推進対象の研修会及び市民向け啓発イベントの開催	・策定委員会の開催(6回) ・県南部男女共同参画センターとの連携によるイベント開催 ・男女共同参画推進協議会の開催(2回) ・市報、市HP、かまくらFM等による啓発	・策定委員会の開催(6回) ・県南部男女共同参画センターとの連携によるイベント開催 ・県等が主催するイベント等に協力 ・市報、市HP、かまくらFM等による啓発活動を実施	・男女共同参画推進協議会及び策定委員会の開催(3回)＝アドバイザーを導入 ・県等が主催するイベント等に協力 ・市報、市HP、かまくらFM等による啓発活動を実施	・ワークショップを取り入れた策定委員会を開催 ・県南部男女共同参画センターとの連携によるイベント開催 ・各啓発活動の徹底	③第三次男女共同参画行動計画策定(3/18) ②男女共同参画フェスティバル開催(2/27) ③女性活躍推進セミナー(8/28)	・策定委員会の開催(8回) ・男女共同参画推進協議会の開催(2回) ・県南部男女共同参画センターとの協議及び連携	・第3次行動計画には女性活躍推進法の対応が盛り込まれており、実践的な取り組を伴う計画となっており、男女共同参画の更なる推進が期待できる。

■平成27年度

まちづくり推進部 生涯学習課 組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況【output+input】		成果分析【outcome】
				目標指標の内容 (何を)	目標の基準値 (目標設定時の状態・ 比較実績)	目標値 (どの水準までどうする・達成後 の状態)	目標達成のための具体的方法 (具体的な取組・行動の内容・スケ ジュールの概要など)	【現 状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値 (目標の達成状況・ 現在の状態)	②取組・行動内容 (目標達成のために 行った取組・行動)	③目標達成による成果 (目標の達成による効果・ 目標達成できなかった事由)
								上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)			
1	生涯学習課	公民館の地区交流センター化の推進	A	・試行館(14館)との連携強化および一部指定管理への移行	・試行 14館 試行継続館 8館 27/4新規試行 6館	・4～6月 新規試行開始館(6館)支援 試行14館による運営協議会の立ち上げに向けて会議の実施 ・試行8館の事業検証と判定 関係条例の制定・廃止や指定管理に向けた関係部局との協議の実施 ・試行館長の交流センター化先進地(岩手)研修実施 ・7～12月 試行館の実績評価・検証結果と交流センターの方向性について、まちづくり調整会議や政策会議への協議 試行館以外の公民館へ交流センター化の状況説明を実施 ・28/4月 指定管理希望館との具体的協議、指導 12月議会 ・1～3月 28年度指定管理に向けた準備、指導	・新規試行館支援一備品他を対応 ・試行8公民館の事業検証を政策会議に報告(8/17)→政策会議了承 ・地域づくり支援課と3回の基本協議実施→地区会議+公民館を確認 ・6/29先進地視察 一蘭市訪問(生涯学習課4+支援課3) 一部指定管理をH28年4月を目指していたが、新部としての対応を再協議し、交流センター化のスタートをH29年4月とし、指定管理についてはその後の検証結果等の状況を確認し検討 (本件については、9/4の公民館長会議に報告)	8/17 政策会議への報告を終えて まちづくり推進部としての「基本計画」を2課で作成し、年内に政策会議へ報告、了承をえる (10月以降に検討チーム立上げ、今後のスケジュールを確認) ・14試行館の協議会を立ち上げる	・試行14館の協議会の立ち上げまで行っていなかった。 ・試行8館の事業検証を政策会議に報告した。 ・条例の具体的な検討に入れなかった。 ・指定管理については、市の「指定管理者制度に関する運用指針」により、指定管理ありきのセンター化ではないことを、公民館長他にあらためて説明を行った。 ・平成28年度からの総合計画へ「公民館を交流センター(仮称)として市民協働の拠点とする」と明文化した。	・市民協働による地域づくりを実施している先進地を視察した。 ・地域づくりの仕組みの見直しについて、原案を作成し部内での協議を行った。 ・社会教育委員や公民館長等へ交流センター化に向けての現状を説明し協力を求めた。	・指定管理に伴うリスク説明が不十分だったことから、容易に指定管理できる期待感を地域に与えてしまい、より十分な説明が必要となった。 ・新たな地域づくりの組織の検討が必要となった。	
2	生涯学習課	市民ステージ祭・交流美術展の充実	B	・出演者(団体) ・出展数 ・観客数	秋田ふるさと村ドーム ↓ 横手市民会館に変更	・市報、横手かまくらFMの有効利用 ・ポスター、チラシの早めの配布 ・各地域芸文協への積極的な参加の呼びかけ ・担当職員による打ち合せを徹底し スムーズなスケジュール調整を行う 「佐々木宗一郎」氏の特別企画展を実施(20作品程度)	・8/10 市芸文協役員会実施 12/5・6日の「市民ステージ祭・交流美術展」開催の確定 ・ステージ祭参加団体の調整	・芸文協役員会の随時開催 ・参加団体の調整と確定 ・地域層担当と調整打ち合わせ ・特別企画展の調整 ・市民周知(かまくらFM.ちらし等)の対応 12/5・6の開催	・出演者 600名 ・出展数 145点 ・観客数 1,600名	・地域芸文協への早めの声掛け、参加をお願いした。 会員の高齢化があることから、保育所、小学生にも広く声掛けし、幅広い年齢層の参加を促した。 ・交流美術展については、佐々木宗一郎氏の作品20点、山内出身の公立美大生の作品20点を展示し、質の高い美術展が開催できた。	・目標の2,000名までは届かなかったが、前年度観客数は上回ることができた。 ・参加者の年代が広がり、若い力の発掘につながった。 ・観客から「よかった」との声を多くいただいた。 ・12月の開催を要検討(高齢者の寒さ対策)。 ・市民会館までの足の確保を要検討。	

■平成27年度

まちづくり推進部 スポーツ振興課 組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況【output+input】		成果分析【outcome】
				目標指標の内容 (何を)	目標の基準値 (目標設定時の状態・比較実績)	目標値 (どの水準までどうする・達成後の状態)	目標達成のための具体的方法 (具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	【現状】		①達成値・実績値 (目標の達成状況・現在の状態)	②取組・行動内容 (目標達成のために行った取組・行動)	③目標達成による成果 (目標の達成による効果・目標達成できなかった事由)
								上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と取組の予定(具体的活動・行動)			
1	スポーツ振興課	スポーツのまちづくり事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくりとスポーツ振興</li> <li>・スポーツを核に関係機関が連携した取り組みの推進</li> <li>・スポーツのまちよこてを全国にPR</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全都市一体感のある統一的なスポーツ振興</li> <li>・他の分野(健康、観光、食等)との有機的な連携</li> <li>・全国に横手を宣伝できる事業の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種スポーツ団体主催による全横手市民を対象とするスポーツ大会(10種目以上)の開催</li> <li>・4/22～26 全日本男子バレーボールチーム合宿</li> <li>・5/27 チャレンジデー2015inよこて</li> <li>・7/3～5 横手わか杉カッパ高校男子バレーボール大会</li> <li>・7/28 巡回ラジオ体操</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種スポーツ大会への市長杯カップと賞状の授与</li> <li>・夏季巡回ラジオ体操・みんなの体緑会(7/28)1,500名</li> <li>・那珂市スポーツ交流(8/1-2)38名、カヌー体験、バレーボール交流</li> <li>・大学野球合宿(8/1-29)中央学院大、神奈川大、日体大 計137名</li> <li>・慶應、東北高校野球サマーキャンプ(8/16-19)50名</li> <li>・3×3男子バスケットボール日本代表合宿(8/20-22)11名、秋田NH11名</li> <li>・秋田NH合宿(9/1-3)16名、市民交流会300名</li> <li>・横手わか杉旗争奪東北中学校野球大会(9/26-27)12校、優勝仙台育英学園秀光中学校</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全日本男子バレーボールチーム合宿(4/22-26)24名、4/26エキシビジョンゲーム観客1,000人</li> <li>・チャレンジデー2015inよこて(5/27)参加率86.9%大牟田市に圧勝、カテゴリー5で優秀賞受賞</li> <li>・横手わか杉カッパ高校男子バレーボール大会(7/3-5)8校、優勝松山工業高校</li> <li>・10/9 秋田県体育施設協会研修会</li> <li>・10/25 友好都市交流 あつぎマラソン</li> <li>・10/31-11/1 第55回奥羽横断駅伝大会</li> <li>・11/8 世田谷246ハーフマラソン</li> <li>・11/28-29 横手わか杉カッパ東日本中学バレーボール大会</li> <li>・1/9-11 チャンピオンズカップ横手東北中学新人バスケットボール大会</li> <li>・2/6 横手市民スキー大会 アルペン競技</li> <li>・2/7 横手市民スキー大会 クロスカンントリー競技</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全横手市民を対象とするスポーツ大会の開催 次年度開催予定の横手市民体育協会主催による2016横手市民スポーツフェスティバルで実施</li> <li>・スポーツ事業に他の関係部局の施策を複合的に組み入れたイベントの開催 ①チャレンジデー～商工観光部、健康福祉部、教育委員会をはじめとする多くの部局と連携し、大勝利をおさめた ②秋田ノーザンハビネッツ市民交流会～観光協会、コンベンション協会等の協力で多くの市民(300名)が選手との交流を楽しんだ ③夏季巡回ラジオ体操・みんなの体操会～幼児から小中高生や高齢者まで大勢(1,500名)の参加で盛り上がった</li> <li>・全国に横手を宣伝できるイベントの開催や著名チームの合宿誘致 ①イベント～全日本男子バレーボールチームエキシビジョンゲーム、横手わか杉カッパ高校男子バレーボール大会、バスケットボールWリーグ増田大会 ②合宿～全日本男子バレーボール、3×3バスケットボール日本代表、玉川大学女子バスケットボール、宮城教育大学女子ハンドボール、中央学院大学硬式野球部、神奈川大学硬式野球部、日本体育大学硬式野球部</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・横手市民体育協会や各種スポーツ団体との密な協議により市民スポーツフェスティバル開催に向けた準備を重ねた</li> <li>・スポーツイベントなどで横手の強みである食、観光、健康の専門分野を巻き込んだPRを行った</li> <li>・横手に関係のある人脈等をフル活用し、全日本代表クラスのイベントの開催に向け努力した結果が実った</li> <li>・イベントの誘致同様(に)スポーツ合宿にも力を注ぎ、年数回の誘致活動により大学や企業の有力チームの合宿が実現した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツのまちづくり事業については、実行委員会、競技団体との意見交換を行い、事業内容の充実にも努めた。</li> <li>・大会やイベントの開催にあたっては、実行委員会や関係団体との調整会議を行い、大会運営の充実と安全・安心な運営に努めた。</li> <li>・チャレンジデーについては、全地域のスポーツ推進員や体協関係者、企業、学校の協力を得て大牟田市に大勝利、人口別カテゴリー-86.9%で優秀賞を獲得した</li> </ul>	
2	スポーツ振興課	スポーツ立市よこて推進事業	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民参加型スポーツ事業の推進</li> <li>・総合スポーツイベントの企画・実施</li> <li>・日本を代表するスポーツ選手や指導者の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民が気軽に行える新たなスポーツの紹介と発展</li> <li>・「する」スポーツに加え「みる」スポーツイベントの開催</li> <li>・日本代表選手や指導者育成のための体制強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなニューススポーツの情報収集や講習会等(3回以上)の開催</li> <li>・「する」スポーツに加え「みる」スポーツイベントの開催</li> <li>・日本が誇るトップアスリートやスポーツ指導者の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニューススポーツ(スマイルボウリング、フロアカーリング等)の大会や講習会への参加と必要備品の拡充</li> <li>・横手の魅力(観光、文化、食等)をモットにした複合型スポーツイベントの開催(9/13 ふるさとあきたラン)</li> <li>・「産自動車ベースボールクリニック(8/29-30)13名、中学生48名</li> <li>・楽天イーグルス野球塾(9/20)3名、小学生92名</li> <li>・パナソニックハンサーズバレーボール教室(9/26-27)10名、中学生156名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさとあきたラン横手大会(9/12-13)36チーム、優勝鹿角市A複合型イベント～全県駅伝大会に加えこ当地自慢フェスティバル、世界ムカデ競走選手権、コニカミナoltaランニングクリニックの合同開催</li> <li>・4/26全日本バレーボールチームフィジカルコーチ大楠法晴氏による指導者講習会</li> <li>・日産自動車ベースボールクリニック(8/29-30)13名、中学生48名</li> <li>・楽天イーグルス野球塾(9/20)3名、小学生92名</li> <li>・パナソニックハンサーズバレーボール教室(9/26-27)10名、中学生156名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10/12 横手スポーツフェスティバル2015(ランドゴルフ、ウォーキング)</li> <li>・2/13-14 市民スポーツ交流大会 スマイルボウリング</li> <li>・2/13-14 bjリーグ秋田ノーザンハビネッツホームゲーム</li> <li>・2/21 横手市民スポーツ賞授与式</li> <li>・3月 全県スポーツ交流大会 スマイルボウリング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなニューススポーツの情報収集や講習会等の開催</li> <li>・スマイルボウリング、ランドゴルフ、フロアカーリングの大会や講習会の実施</li> <li>・部局を横断した総合的なイベントの開催</li> <li>・複合型スポーツイベント”ふるさとあきたラン横手大会”の開催</li> <li>・日本が誇るトップアスリートやスポーツ指導者の創出</li> <li>・～全日本男子バレーボールチームによる教室や指導者講習会、楽天イーグルスや日産野球部によるベースボールクリニック、コニカミナoltaによるランニングクリニック、パナソニックハンサーズによるバレーボール教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニューススポーツ(ランドゴルフ、スマイルボウリング、フロアカーリング等)の大会や講習会の開催し、会場の整備や必要備品の拡充を行った</li> <li>・秋田県の主催事業である”あきたふるさとラン横手大会”で横手の魅力をアピールし、複合型スポーツイベントを成功させた</li> <li>・スポーツイベントや合宿に参加したスタッフによるクリニックや教室は指導者講習会などを開催し、見るだけのスポーツを知るスポーツや育てるスポーツにも拡大させた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニューススポーツの大会・講習会を実施したことで、生涯スポーツの振興及び冬季スポーツへの取り組みのきっかけづくりにつながった。</li> <li>・大会誘致、スポーツ合宿等を実施したことで、見る・応援するスポーツの機会を得ることができ、交流人口の増加にも一定の成果がみられた</li> <li>・スポーツ関係の指導者講習会や講演会、競技者向けクリニックを開催したことにより、指導者や競技者のレベル向上に寄与した。</li> </ul>

■平成27年度

まちづくり推進部 歴史まちづくり課 組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況【output+input】		成果分析【outcome】
				目標指標の内容 (何を)	目標の基準値 (目標設定時の状態・ 比較実績)	目標値 (どの水準までどうする・達成後 の状態)	目標達成のための具体的方法 (具体的な取組・行動の内容・スケ ジュールの概要など)	【 現 状 】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値 (目標の達成状況・ 現在の状態)	②取組・行動内容 (目標達成のために 行った取組・行動)	③目標達成による成果 (目標の達成による効果・ 目標達成できなかった事由)
								上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)			
1	歴史まちづくり課	増田伝建地区の保存修理修景事業の推進	A	伝建地区内の建造物及び工作物の修理修景	修理修景事業2年度目 昨年度予算38,203千円 今年度予算49,689千円	1、国庫補助事業の説明会資料を策定、また説明会の計画的実施 2、復原修理工事の進め方・施工管理方法を確立、また物件毎の修理履歴を整理する(許可行為も同様) 3、技術者や技能者の技術向上のための講座を開催する	1、事業の流れを資料に整理、定期的な説明会の実施する 2、業者に対しては公共工事を参考に進め方・施工管理方法を提案、また課内では物件毎の履歴をファイルで管理できるよう整理する 3、増田まちなみ研究会と技術者養成について定期的に話し合う、また技能者については修理技術者養成講座を開催する	1、「伝統的建造物群保存地区の手引き」を作成し春の相談会や今年度事業実施する地区住民に使用した。 2、今年度事業は9月末現在で工事は9割近く終了。資料の提出には至っていない。 3、年度末の3月に実施している講習会であるが、年度初めには補講を1回行った。	1、次年度やそれ以降修理事業を希望している住民にも手引きを使用し、分かり易い説明に努めたい。 2、工事完了とそれに合わせた工事監理資料の作成を業者に適切に指導し、施工精度のレベルアップを図りたい。 3、修理技術者講習会の内容を精査し、修理事業に携わる技術者技能者の育成に努めたい。	1、国庫補助事業の説明会資料として「伝統的建造物群保存地区の手引き」を作成。相談会や地区住民に配布し活用した。 2、復原修理工事の進め方についても上段の「手引き」を活用、また施工管理については前年度を参考に指導を実施。物件毎の修理履歴(カルテ)の整理はまだ検討中。 (許可行為も同様) 3、技術者や技能者の技術向上のための講座は新規用1回と更新用4回開催した。	1、「伝統的建造物群保存地区の手引き」を作成し春の相談会や今年度事業実施する地区住民に使用した。 2、今年度事業は2月末現在で工事は全て終了。実績報告書の作成を残すのみ。 3、年度末の3月に実施している講習会であるが、年度初めには補講を1回、年度末の3月には内容を最新のものに改良を加え実施した。	1、次年度やそれ以降修理事業を希望している住民にも手引きを使用し、分かり易い説明に努めたい。今後とも理解を深めてもらうよう努めたい。 2、設計から工事完了までの手順と書類作成を業者に分かりやすく指導し、伝統的建造物の施工精度と施工記録のレベルアップを図りたい。 3、修理技術者講習会の内容を精査し、修理事業に携わる技術者技能者の理解力向上に努めたい。
2	歴史まちづくり課	増田伝建地区防災計画の策定	A	伝建地区防災計画	地区防災計画策定 H26年度 現況調査 H27年度 対策調査 H28年度 計画策定	1、今年度の委託契約 2、3回ある策定委員会の実施 3、地域懇談会の実施 4、火災・震災対策の計画完了 5、震災対策の立案	1、2、工学院大学との調整 3、各災害について地域住民を対象に懇談会を実施 4、震災以外の災害について基本計画レベルの計画を策定 5、震災対策の立案	1、工学院大学と今年度の防災計画策定調査の委託契約を締結し、調査と防災計画(案)の立案を行った。 2、今年度第1回目の防災計画策定委員会を6月に開催した。 3、火災対策に関する住民懇談会を6月に実施し、火災対策に関する住民の意見聴取を図った。	1、震災・震災等に関する住民懇談会を開催し、住民の意見を聴取し防災計画に反映させる。 2、委託先である工学院大学と防災計画策定調査報告書の編集内容の調整を図る。 2、防災策定委員会を10月と2月に開催し、最終的な防災計画を策定する。	1、工学院大学に防災計画策定調査と防災計画(案)の立案を委託し、調査報告と防災計画(案)の提出を受けた。 2、防災計画策定委員会を計画通り3回開催した。 3、防災計画策定調査の一環として防災に関する住民懇談会を2回実施、住民への防災意識喚起と意見聴取を行った。 4、第6回防災計画策定委員会において防災計画が承認され、策定された。	1、防災計画(案)の策定にあたり工学院大学と定期的に策定検討会を実施した。 2、住民懇談会を実施し、防災計画に住民の意見を反映させた。	1、防災計画が策定されたことにより、防災事業の実施体制が整った。 2、次年度より防災設備整備事業に関する基本計画並びに実施設計の作成を開始する。 2、震災に関する調査データの取り纏め調査期間の関係もあり、予定通り次年度に纏めることになっている。
3	歴史まちづくり課	市内歴史遺産の悉皆調査の実施	A	市内各所の歴史資産の現状調査	H27年度 大森地区 4公民館を会場に実施	1、住民へ地域に残る歴史遺産の価値の再認識を促進する 2、地域に残る歴史遺産の活用を検討する 3、地域に残る歴史遺産の活用方法を支援する	1、住民からの聞き取り調査の実施聞き取り調査の分析 調査結果の地域への報告 2、地域の歴史遺産活用につて懇談会等の実施 3、関係部局課、団体等との支援方法の調整	1、大森地区の公民館にて住民よりの聞き取り調査を実施した。 2、効果のある聞き取り調査にするために、聞き取りの方法手段について再検討を図った。 3、記録・記憶の喪失が思いの外危惧される状態であることが判明し、調査対象エリアを大森、雄物川、平鹿地区へ拡大することを検討し準備を行った。	1、聞き取り調査の方法を、集団聞き取りと個別聞き取り等、調査地域に合わせた調査方法にて実施する。 2、住民の機嫌の盛り上げりに合わせて、聞き取り調査等により確認された地域の祭事等の復活等の支援方法を検討する。	1、大森4地区、雄物川4地区、平鹿1地区で、地域の風習習俗、景観等、各地区の歴史遺産について聞き取り調査を実施し、その地区の特性、風習等歴史遺産の掘り起しを行った。 2、聞き取り調査等で確認された地区の特性等を第一次(中間)調査に纏めた。	1、調査対象地区の公民館と協働し、住民から聞き取り調査の実施。 2、聞き取り調査に先立ち、調査対象地区の歴史風習等の事前(文献)調査の実施。 3、調査結果を基にする第一次(中間)調査の作成。 4、調査対象地区の公民館への調査結果の提供。	1、聞き取り調査で明らかになった地域特性・地域遺産を第一次(中間)調査に纏め、地域づくりの参考資料として調査実施した地区の公民館に配布した。地域づくりを進める上で有効と思える物件もあり、公民館、地域局との情報共有を進め、調査結果の有効な活用を検討する。 2、調査地区の基礎知識、資料の必要性が調査を実施して明らかとなり、聞き取り調査の前となる基礎調査に想定以上の時間を有した。 3、聞き取り調査を実施する上で、協力者の参集しやすい時期・会場等の設定に苦慮し、中々調査回数を増やすことが出来なかった。

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成状況【output・input】		成果分析【outcome】	
				目標指標の内容 (何を)	目標の基準値 (目標設定時の状態・比較実績)	目標達成時期 (いつまでに)	目標値 (どの水準までどうする・達成後の状態)	目標達成のための具体的方法 (具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	【現状】 上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	【ギャップと対策】 下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	①達成値・実績値 (目標の達成状況・ 現在の状態)	②取組・行動内容 (目標達成のために 行った取組・行動)	③目標達成による成果 (目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
				1	横手地域課	信頼される地域窓口の構築	B	横手地域の拠点として、条里南庁舎における住民対応サービスを円滑に執行する。	・証明書発行周知により来庁者は増加傾向。 ・組織機構の変更や庁舎移動による来庁者が多い。 ・執務室分化による即時対応職員数の減少。	年度末	・担当職員が不在でも待たせることなく速やかな受付処理ができる。 ・誤来庁した方をスムーズに目的の課室所へつなげることができる。 ・職員のマナーアップ、スキルアップを図るための一人一研修受講。	・朝礼や事務打合せ会の開催、随時連絡の徹底による課内・係内の情報共有。 ・窓口の書類・マニュアルの整備。 ・庁内案内図の掲示、所掌事務一覧表の窓口備え付け。 ・地域の課題・行政職員18名の内、研修等受講者(受講予定者)11名。(1名は2か月間の中堅職員研修受講。)	・毎週月曜日に朝礼、火曜日に課内連絡会議を実施している。 ・窓口で書類棚を配置し、使用しやすい書類配置に取り組んだ。 ・庁舎入口に案内図を掲示したほか、取扱業務の案内文書を掲示した。 ・くらしの便利帳の改定等にあたり、誤来庁を防ぐような記載を市民に満足していただく。
2	横手地域課	安全安心で住みよい地域環境の確保を目指す	A	・道路、公園施設等の適切な維持管理	・道路の安全確保 ・H26道路瑕疵事故4件 ・H26除雪作業事故3件 ・除雪作業の苦情582件 ・公園施設の適正な維持管理 ・所管公園33箇所の遊具、施設等の安全点検の実施により事故0件	年度末	・道路 ・道路瑕疵、除雪作業事故0件 ・除雪作業による苦情件数の20%削減 ・公園 ・安全確保のため修繕箇所を早期発見、改善より事故0件を目指す	・道路 ・各公民館や郵便局など関係機関との早期発見、修繕に努めたが、4月2日、5月1日の車両パンク事故発生した。 ・除雪委託業者1社に対し地区住民より、改善要望を受け聞き取り及び指導を行った。 ・公園 ・安全点検パトロールを定期的を実施し、使用禁止措置や修繕を迅速に行う。	・道路 ・事故防止のため各関係機関との連携を強化し、補修箇所の早期発見、修繕に努める。 ・11月1日より除雪体制に入ることから、きめ細やかな除雪作業を行い、苦情件数の削減に努める。 ・公園 ・安全点検パトロール(毎月1回)を実施し、園内の事故防止に努める。	・道路 ・除雪等の要望、苦情件数 332件(3月末まで) ・道路瑕疵事故4件、除雪作業事故3件(3月末まで) ・公園 ・公園内の施設利用による事故0件	・道路 ・毎季除雪の苦情、要望等の多い地域のパトロールと、委託業者に対しての指導状況説明。 ・建設部及び除雪業者による道路パトロールの密着により、早期の道路修繕等の実施に努めた。 ・公園 ・安全点検パトロール(月1回)の実施により、事故の未然防止に努めた。	・道路 ・道路の苦情件数を昨年度より43%削減した。 ・道路瑕疵事故は昨年度より1件増加したが、仮装による修繕のため、早期に舗装が破損することから、事故の削減には至らない。 ・公園 ・安全点検パトロール(月1回)を来年度以降も継続実施し、事故防止に努める。	
3	横手地域課	金沢地区総合交流施設(仮称)整備事業の推進	A	・平成28年度の小学校統合により廃校となる金沢小学校を活用して同地区の交流促進施設として整備する。	・基本設計・実施設計業務委託を実施する。 ・整備事業に必要な調整、手続き等を進める。	年度末	・H28年度当初予算計上ができる改修工事費の概算。 ・必要な調整・手続きを完了する。	・4月からFM計画推進に伴い、機能合体及び複合化施設建設も視野に入れた整備事業に取り組みたい。 ・基本設計及び実施設計業務委託が予定されていた上期に実施できなかった。 ・市各部署との連携をとり整備事業に必要な協議を実施している。ただし、精度が必要なことから、上期までに整備事業内容の調整を完了できなかった。	・整備方針の見直しを行い、交流ホール新設の代わりに既存体育館を改修して活用することとしたため、基本設計が不要となった。 ・実施設計業務委託契約を締結し、実施設計を完了した。 ・教育委員会と施設移管に向けた調整を行い、平成28年度に所管替えすることとなった。 ・金沢公民館整備検討委員会を中心とした地区住民への説明会を実施した。	・11/26 金沢地区市民地域会議にて進捗状況説明。 ・12/24 施設整備に係る意見交換会(金沢地区)。 ・1/7 施設整備に係る意見交換会(金沢地区)。 ・1/12 実施設計業務委託契約締結。 ・3/3 整備内容の報告会(金沢地区)。	・実施設計業務が完了し、28年度の施設改修工事に向けた準備が整った。 ・併せて、旧金沢小学校裏グラウンドの今後のあり方、金沢野財地区との関係、施設出入口への押しボタン式信号機設置の要望など、施設整備に関連する諸課題について、関係機関とこれまで以上に連絡を密にしながら、解決に向けて前進していく必要がある。		
4	中央公民館	主催講座の充実と、合同講座の開催による生涯学習の機会を増やし、連携と交流を図る。	A	・朝倉公民館及び横手地域の他公民館との合同講座を実施し、地域間交流を図り、より親しみの持てる公民館にし、利用促進を図る。 ・通年講座(複数開催講座)の受講率の向上	・朝倉公民館との合同講座の開催、4回。他公民館との合同講座の開催。 ・通年講座受講率の前年度比	年度末	・アンケートを実施し、満足度平均値90%以上。 ・通年講座受講率80%以上。	・過去の合同講座開催時のアンケートなどを振り返り、運営上の工夫を担当者同士の打ち合わせを充実させ、実行する。 ・毎回アンケートによる受講者の意識確認をおこなう。かつ、受講生同士のお互い担当職員も交流を深める。 ・講座開催後の検証をおこない、次回開催にいかす。	・朝倉公民館との合同講座の開催(5回計画で2回開催済み) ・通年講座前分期開催済み 受講率約75% ・アンケートによる満足度 約90%	・合同講座については予定どおり開催し、受講生同士の交流の幅を広げることができた。さらに、共同で行う事で職員(公民館指導員)のスキルアップにつながった。 ・通年講座の受講率は、74%と目標値に届かなかった。 ・アンケートによる満足度は、90%以上となった。	・当初予定の開催日を調整するなど、受講しやすい(参加しやすい)日程に変更した。 ・合同講座の開催場所を、他施設でおこなうことで、他地域の方々にも集まりやすい状況を設定した。 ・講座の内容がマンネリにならないよう、過去の事業内容を振り返り、新しい情報収集につとめ、企画内容を決した。 ・通年講座の受講率アップが見られなかった点について、開催日および回数の見直しが必要と思われる。	・タイムリーな情報収集をすることで、新しい発見をしてみたり、一個人ではできないようなことを提供しようという試みも多かった。 ・通年講座の開催場所を、他施設でおこなうことで、他地域の方々にも集まりやすい状況を設定した。 ・講座の内容がマンネリにならないよう、過去の事業内容を振り返り、新しい情報収集につとめ、企画内容を決した。 ・通年講座の受講率アップが見られなかった点について、開催日および回数の見直しが必要と思われる。	
5	朝倉公民館	主催講座の充実と、合同講座の開催による生涯学習の機会を増やし、連携と交流を図る。	A	横手中央公民館及び横手地域の他公民館との合同講座を実施し、地域間交流を図り、より親しみの持てる公民館にし、利用促進を図る。	中央公民館との合同講座の開催、4回。他公民館との合同講座の開催。	平成27年度末	アンケートを実施し、満足度レベル5のうち4以上を90%に近くする。主催講座の参加者を前年比、1割増加させる。	4月 講座開催に向けた打ち合わせ。4月末から講座開始。アンケート結果に基づき、次回の講座の内容の改善に向けて、自主サークル化を目指すなど、公民館利用者の増を図る。	・中央公民館との合同講座の開催は、お互いの協力で順調に開催できた。 ・「つくり」講座は、食器や盆など、毎回連続したテーマで作成し、最後は、みんなで調理して自作の作品で楽しむことで、満足度が上がった。 ・手作りカンプ講座も、目新しいものを行ったことで、参加者も次の講座を楽しみにしている状態である。 ・アンケートによる満足度は、ほぼ100パーセント。	・後期の講座も館報、口コミで宣伝し、参加者の増加を図る。自主サークル化は難しい課題であるが、魅力ある講座の開催から、新しいサークルができるよう努力していく。	中央公民館や、講師と綿密な打ち合わせを行い、より満足度の高い講座にするようにした。合同講座でも、受講者の多い公民館の主催講座に参加し、講座の進め方、新しい講座の発見、講師との出会いなど学びを深めた。また、アンケートの結果を分析し、次回の講座につながるようにした。	参加者の人数が多くなると、満足度の高い講座がほとんどだった。新しいものに挑戦することで、地域住民の好奇心、やる気を引き出し、元気アップにつながった。 参加者の1割増については、講座の回数が前年度に比べて減ったこととあり、達成できなかった。サークル化については、なかなか自主的に主体となるづくりが難しく、達成できなかったが、講座を行ったことにより、現在すでにあるサークルの方に会員が増えるかもしれない嬉しい兆しがももあつた。	
6	栄公民館	主催講座の充実と公民館利用者の増加	A	笑い健康、ものづくりを取り入れた講座の推進、満足度の向上と利用者の増加を目指す。	新規講座の開催 ・ステキな寄せ植え講座 ・笑学校へ行くこ ・季節の小物づくり教室 ・ちりめんあそび教室 ・らら健康体操教室 ・延べ29,963人	平成27年度末	・講座参加者の満足度向上、趣味の幅拡大を図る ・年度利用者1,000人増加	・アンケート調査を実施し、結果の振り返りを行い、次回の講座へつなげる。 ・ニーズを随時把握し、新規講座につなげる。 ・募集手段の検討 ・公民館利用についてのお知らせ実施	・ステキな寄せ植え講座「これまでの基礎内容から」魅せる1講座に取り組んでいる。 ・「笑学校へ行くこ」男性受講生増を目指すとしたが、目標クリアには至っていない。しかし、給食の時間は、貴重な体験となっているようだ。 ・公民館利用者数は、前年同期19%増の17230人となっている。	・講座「笑学校へ行くこ」では、男性参加者が3名で参加者全体の2割に留まった。 ・講座「季節の小物づくり」では、習得したことを地域の方や友人に教えるなど広がりを見せている。 ・参加者の口コミで受講者が増えていくことも多くみられるので、より充実した講座内容を行っている。 ・2月末時点までの11か月間で、館利用者数は昨年度1年間の利用者数と肩を並べた。(延べ29,765人)	・受講生からの意見や要望を確認し、それらを講座内容に活かしたことににより参加者が増え、趣味の幅が広がった。 ・男性向けの講座については、内容や開催時間等について検討し、引き続き努力していきたい。		

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況【output・input】		成果分析【outcome】	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまでに)	(どの水準までとする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	①達成状況・ 現在の状態	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
7	旭公民館	地区住民と一体となった事業の推進	A	地区住民と一体となった事業活動の推進により参加者増を回り、さらに元気の地域づくりを目指す。	26年度参加実績 ・旭地区夏まつり 1,200名 ・旭ふれあい館まつり 1,100名	年度末	26年度実績を上回り ・旭地区夏まつり 1,300名 ・旭ふれあい館まつり 1,200名	・町内会および各団体(学校、PTA、婦人会など)と連携し、各事業を推進する。 ・館報、チラシによる積極的な事業周知と参加への呼びかけを行う。 ・アンケートを継続して実施し、事業の充実に反映させる。	・旭地区夏まつり(8/1開催)旭地区市民会議を主体として実行委員会を組織し、地域内の各団体と連携して館報等を活用した周知活動を展開した。 参加者数としては、昨年を上回り、1,300名に近い参加となり、大変盛況であった。	・旭ふれあい館まつり(10/24開催予定)「こどもにまかせろりー15 FESTIVAL」を併催 開催内容を工夫しながら、各利用団体や学校・施設等と連携して充実したまつりにする。 併せて、チラシや館報で周知を徹底し、参加者増を図っていきたい。	・旭地区夏まつり 1,300名 ・旭ふれあい館まつり 1,200名 上記の結果となり、目標を達成することができた。	・旭地区市民会議を主体として実行委員会を組織し、地域内の各団体と連携して事業内容の工夫・検討を行った。 また、館報やチラシ等を活用して周知活動を展開するとともに、公民館の利用者、来館者にも開催予定表を掲示して積極的にPRした。	・地区住民が相互に交流し、協力し合う場となり、各まつりとも目標に掲げた参加者数を達成することができた。 ・事業内容についても年代を問わず好評で、特に「こどもにまかせろりー」をはじめ子供たちの出演・参加が多く、楽しく有意義なものになった。
8	境町公民館	みんなで広げよう地域の輪 地域住民と一体となった事業の展開	B	①3地区交流事業を開催する。 ②昔の遊びと食文化を伝承する事業を開催する。	①北中学校に通う生徒の交流に併せ、金沢、黒川の地域住民と3地区での交流を図る。 ②大人と子供と一緒に体験しながら世代間交流を図る。	事業終了までに	①北中学校を含め3地区の会場で文化・スポーツ交流会を開催し、親睦交流会では情報交換の場とする。 ②昔の遊びを通じ世代間で交流を深めながら、身近な食材で手作りの食文化を体験する。	①3地区での協議や、参加団体への依頼、住民への周知を図る。 ・スポーツ交流4種目(午前開催) バレーボール、ゲートボール、グラウンドゴルフ、野球。 ・親睦交流会(昼食会) 地産地消を学習する。 ②境町冬まつりの共催事業とする。 ・昔の遊び……おぼじき、お手玉、メンコ、けん玉など。 ・手づくりおやつ作り体験…餅つき、おやき、みそタンポなど。	3地区交流ふれあい事業11/8開催予定。 冬まつり2月上旬開催予定	金沢・黒川・境町地区全戸にチラシを配布予定。	・3地区交流ふれあい事業参加者300名 ・境町地区冬まつり参加者200名	・境町地区地域会議が主体となり、各団体、地域担当職員一丸となり事業成功にむけ取り組みを強化した。 館報、地域の小学校、保育園、近隣地域のコンビニエンスストア、及び横手地域内にある大型スーパーなどにチラシやポスターを活用し周知を図った。 ・3地区交流ふれあい事業では境町地域資源保全隊の協力を得て、また冬まつりでは数年ぶりにかまくらを作成し、当日は「なまはげ」も登場し、イベントを盛り上げていただいた。	世代を超えての交流や、日頃、交流することの少ない他の地域との交流を深めることができ、参加者からは大変好評を得ることが出来た。
9	黒川公民館	主催講座の充実と黒川地区元気事業により地域の連携と交流の促進	A	・主催講座(5講座)の参加者の増員 ・地域事業(3事業)への参加者増員	・主催講座参加者 (H26 述べ265人) ・元気事業参加者 (H26 述べ1,093人)	年度末	・主催講座参加者 300人 ・元気事業参加者 1,500人	・アンケートを実施し、募集方法の工夫・改良 ・これまでの実績を踏まえ、事業内容の見直しや工夫 ・地域事業実施の各事業に実行委員会を組織する	・主催講座 ふれあい講座 24人 黒川まなび教室 32人 リフレッシュ教室 54人 ・黒川地区元気事業 さくらライトアップ 200人 ※ ほんもの体験 黒川小学校全校児童がプロの指導を受けミュージカルの発表に向けて組んでいる。	・主催講座は2講座が目標を下回っているため、今後のPRに力を入れる。また今後開催する「しめ飾りづくり」「認知予防講座」に向けては、黒川地区全体に案内する。 ・元気事業については目標通りである。今後、ほんもの体験の10月発表会とオアシス館まつりに向けPRに力を入れたい。	・主催講座参加者 268人(92.6%) ふれあい講座 66人 黒川まなび教室 53人 リフレッシュ教室 98人 しめ飾りづくり 16人 合同講座2回 45人 ・元気事業参加者 1,430人(95.3%) さくらライトアップ 200人 ほんもの体験 230人 オアシス館まつり 350人	毎月発行の公民館報で各種講座・事業を紹介し参加者の呼びかけと共に、リフレッシュ教室では受講者へ個別に案内。 元気事業の「ほんもの体験」の活動をHPや横手かまくらFMを活用してPRした。	認知症予防講座の開催については、地区の各団体の方と協議し進めたが、地区のイベント等で協議の方が集まるような機会に行うことを望まれ、調整がつかず実現しなかった。
10	金沢公民館	生涯学習主催講座の内容を充実させ、参加促進を図る。	A	・主催講座(5講座)の参加者数 ・受講者の満足度を高める。	主催講座の参加者 (H26年度 述べ1,002人)	年度末	・主催講座参加者 H26年度末 1,002人 (前年度比 +28.1%) 新規参加者を1割増員 ・受講者の意見やアンケート内容を考慮して、講座内容を工夫する。	・主催5講座について、アンケートを実施し、受講者の意見を聞くなど内容の充実を図る。 ・活動内容などを公民館報に掲載し、期間途中であっても定員に余裕があれば地区住民の参加を促す。	・9月までの主催講座参加者数 409人 新規参加者数 78人 館報に講座の様子を掲載し、広くPRに努めている。	・今後とも、講座内容を工夫し、魅力あるものをPRして参加者増員に努めてまいります。	・主催講座参加者 841人 (前年比-16%) 歴史遺産 69人 歩いて健康 141人 女性スマイル102人 悠々講座 107人 子ども書道 210人	毎月発行の公民館報で各種講座・事業を紹介し参加者の呼びかけを行った。	各講座において、参加者は増員しなかったが、参加者の方々には、好評を得た。

■平成27年度

まちづくり推進部 増田地域課

組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容			目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況【output・input】		成果分析【outcome】		
				目標指標の内容 (何を)	目標の基準値 (目標設定時の状態・比較実績)	目標達成時期 (いつまでに)	目標値 (どの水準までとする・達成後の状態)	目標達成のための具体的方法 (具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	【現状】 上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	【ギャップと対策】 下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	①達成値・実績値 (目標の達成状況・ 現在の状態)	②取組・行動内容 (目標達成のために 行った取組・行動)	③目標達成による成果 (目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
				1	増田地域課	安心安全な住み良い地域づくり	B	・災害時の連絡系統や各課、各職員の役割分担を明確にした訓練を実施し、地域住民と連携して災害等に迅速に対応できる体制を整備する。 ・増田地域局と地域住民が一体となり防災訓練を実施することにより、防災意識の向上と体制強化を図る。	年度末まで	・防災訓練(増田地区)の実施 ・災害時の連絡系統の体制整備 ・災害時における災害対策本部等の迅速な設置体制の確立 ・地域住民、消防団、婦人会等を含めた防災訓練の実施と事後検証。 ・増田地域局勤務職員を対象とした駆け付け訓練の実施。 ・緊急連絡網の伝達確認訓練の実施	・増田地域の訓練実施のため、現在増田地域センターで検討中である。 ・今後、内容、日程を関係機関と打合せを行う。 ・連絡網の作成。	・クロスロード体験会の実施 ・災害時の連絡系統の体制整備 ・災害時における災害対策本部等の迅速な設置体制の確立	・増田地域センターと協力し、防災への意識高揚のためクロスロード体験会を実施。 ・職員及び消防団等の異動に伴う連絡系統の確認。 ・地域局の避難訓練に消防団本部にも参加してもらい災害対策本部設置体制の確認を行った。
2	増田地域課	横手市増田地域じまん市の推進	B	出店者・出展物に工夫を凝らし、来店者数の増加を図る。	平成27年10月	出店者数 10件 来場者数 1,000人	早い時期から周知を図り、農業に限らず他産業の商品等も出店してもらうように進めている。 また、農業者だけでなく老若男女の集客をめざし、納豆汁の振る舞いや抽選会、縁日を計画している。	人が集まる時期ということでは「蔵の日」に併せて実施するが、この時期は農家が忙しかったり、農産物が少ないことから来年以降はりんご祭りや合体させるなど考えて取り組んでいく必要があると思う。	出店者数 10件 来店者数 1,200人	早い時期から周知を図り、農業に限らず他産業の商品等も出店してもらうように進めた。 また、農業者だけでなく老若男女の集客をめざし、納豆汁の振る舞いや抽選会、縁日を実施した。	ファーストフード的な軽食を提供できる店舗を新たに追加したことが、集客の増につながったと思う。 人が集まる時期ということでは「蔵の日」に併せて実施するが、この時期は農家が忙しかったり、農産物が少ない。 来年は蔵の日がないことから別の行事の時期を見ながら取り組んでいく必要がある。		
3	増田地域課	まんが美術館の充実	A	さらに魅力ある企画展等の開催及び今後の施設運営に関する検討	年度末まで	・開館20年、合併10年の節目にふさわしい内容を含め、企画展を年3回開催 ・新しいまんが美術館構想の実現 ・財団の事務所とスタッフ確保等に向けた実務上の支援	・企画展成功に向けたPRや関係機関との連携 ・新美術館構想に向け、現場からの意見集約と庁内協議への参加 ・財団の事務所とスタッフ確保等に向けた実務上の支援	・節目の年としての大規模企画展を含め、現在3回目となる「矢口高雄全原画展」を開催中。 ・複合施設「ふれあいプラザ」のまんが美術館特化に向け、検討会議に参加している。 ・財団への今年度の支援として、発足に伴う諸手続きや将来の収支試算を中心に実施している。	・県外他市(登米市・石巻市・遠野市)との連携によるスタンプラリー事業のPR。 ・限られた時間の中で公民館機能の移転に関する調整が必要。また、原画収蔵に向け、漫画家の先生との協議も急ぎたい。 ・財団スタッフが確保されたので、実務上の支援を継続する。	・まんが美術館常設展入館者数約6万人 ・春の企画展「東村アキコ原画展」入場者数 761人 ・合併10周年・まんが美術館開館20周年記念企画展「宇宙兄弟展」入場者数 5,831人 ・秋の企画展「矢口高雄全原画展」入場者数 1,144人	・原画収蔵数については、矢口高雄氏からの寄贈と魅力アップ事業での借入れにより、H27年度で78,040点(10人)増加し、計76,487点(180人)となった。 ・登米・石巻・遠野の各市との連携によるスタンプラリーを実施、4施設訪問達成者数が168人となり、前年の102人を大きく上回った。 ・まんが美術館財団に対する実務上の支援として、スタッフ確保に向けた求人手続きや税務上の諸手続きなどを行なった。	・原画の保存及びデジタルデータ化の作業として、H28年度以降も継続的な人員配置が必要である。 ・新まんが美術館構想の具体化に向けた協議に引き続き参加していく。 ・記念企画展に多数の来館者があったにもかかわらず、全体では来館数が横ばいになっており、地元や近隣からの来館増に向けた具体策の検討が必要。	

■平成27年度

まちづくり推進部 増田市民サービス課

組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況【output・input】		成果分析【outcome】	
				目標指標の内容	目標の基準値	目標達成時期	目標値	目標達成のための具体的方法	【現状】	【ギャップと対策】	①達成値・実績値	②取組・行動内容	③目標達成による成果
				(何を)	(目標設定時の状態・比較実績)	(いつまでに)	(どの水準までどうする・達成後の状態)	(具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	(目標の達成状況・ 現在の状態)	(目標達成のために 行った取組・行動)	(目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
1	増田市民サービス課	元気な地域局、明るい環境づくり	B	来庁者等への明るく爽やかな挨拶の励行と適切な窓口対応	課、係を越えた窓口対応(税業務の共有化、他課への案内)	年度内	・待ち時間の短縮 ・クレーム発生ゼロ ・窓口対応マニュアルの更新 ・担当者が不在でも、落ち度なく対応ができるようにする	・来庁者への積極的な声掛けと速やかな対応 ・「窓口対応マニュアル」に税業務を加え整備し、より効率的な対応の実施 ・マニュアルの勉強会を前期1回、後期1回の実施をする	・来庁者への積極的な声掛けの実施 ・窓口対応マニュアルによる課内勉強会実施(8/25)	・来庁者への積極的な声かけ、状況説明により来庁者からの不満の声は無かった。 ・窓口対応マニュアルに税業務を追加する。 ・窓口対応マニュアルに税業務を追加する。	・来庁者への積極的な声掛けの実施により担当係を探して立ち往生することがなくなった。 ・窓口対応マニュアルによる課内全体の勉強会を実施(8/25) ・メンテナンス関係、健診調べ関係、税申告相談関係など窓口対応のポイントについて随時勉強会を実施した。	・担当を越えた業務の遂行で来庁者に積極的な対応ができた。 ・システム権限の制約があるため、直接担当でなければならない業務もあり、状況を説明して待つってもらうこともある。	
2	増田市民サービス課	高血圧管理の充実	A	増田地区高血圧管理者中の治療中断者を国保データベース(KDB)から把握することにより、中断者に確実に働きかける。	増田地区高血圧管理者数40歳～69歳 529人中の国民健康保険加入者について血圧加療状況を把握	年度末	40歳～59歳の加療状況把握し名簿作成 ・40歳以上の高血圧治療中断者の理由把握と指導	1) 国保加入者で健診等で血圧値を把握できなかった人の血圧加療状況を、KDBを使って確認する(40歳～69歳までを対象とし、名簿作成する。) 2) (1)の血圧治療中断者には、電話または訪問で血圧値や中断理由等を把握し、必要な方には指導を行う。(40歳代・50歳代は100%の把握とする。)	・管理対象中40歳～64歳 283人 ・293人中の国保加入者について加療状況を確認し中断者の抽出作業中 ・把握状況のまとめ	・中断者を確定し名簿作成 ・名簿に基づきに中断者への指導実施 ・把握状況のまとめ	訪問による治療状況の把握を実施(不在時は電話指導) 対象者 43人中 ・血圧継続治療者 40人 ・血圧が安定し、服薬しただが医師で経過観察者 2人 ・高血圧治療中断者 1人 中断者の理由 ・高血圧の問題意識が低く治療の自覚がなかった。 治療状況に問題のある方は1人で、ほとんど治療を継続していた。	・高血圧中断者に対する受診指導の良い機会となった。 ・治療中の方も継続治療、生活指導したことにより高血圧を再認識し注意する良い機会になった。 ・訪問時は治療していたが、以前中断して数年前に心筋梗塞となった方もいた。高い値の方は治療継続の働きかけの必要性あり。 ・問題ある方の指導の必要な方の洗い出しができた。	
3	増田市民サービス課	ごみの新分別収集の徹底	B	・新しいごみの出し方の周知	住民への変更点の説明会開催	年度末	カーンプラザがよこでの28年度本格稼働に向け12月中に全町内で新分別収集についての説明会を終了する	・新しいごみの出し方について職員の勉強会実施 ・早期に町内会長等を対象にした説明会を実施 ・各町内会へ出向いての説明会の実施	・町内会での説明会実施 9か所 ・予定未定16か所についても12月中旬に説明会を開催できるように地域に働きかける	・12月17日で全町内会(41か所)の説明会を完了	・地域担当職員、生活環境課の協力を得ながら全ての町内会へ出向いて説明会を実施。 ・説明会や窓口での問合せに対応できるよう、課内での勉強会を実施。	・新分別収集については周知できた。 ・2月からの試行開始時も地域担当職員の協力により大きな混乱は無かった。	
4	増田市民サービス課	安心・安全な保育園づくり	A	・医療的ケアを必要とする園児を含む、全園児の安心、安全な環境整備の充実 ・「年間安全教育」に基づき継続した取り組みの充実を図る	・園内における事故発生(0件) ・月1回 避難訓練 交通安全計画 防犯訓練(年6回)	年度末	・保育中の事故(0件) ・年1回専門業者による安全点検及び修理 ・年間計画に基づいた確実な訓練の実施	・毎朝、保育環境安全チェックの実施 ・毎回、目標達成に向けたPDCAの実践	・毎朝、保育環境安全チェックを実施し、医療的ケアを必要とする園児を含めた全園児の安全な保育の実施。 ・専門業者による安全点検(10月下旬の予定) ・年間安全教育計画に基づき、毎月1回訓練を実施。	・これまでの取り組みから、課題や問題を探り改善に向けていく。 ・職員間の意思疎通をはかり、チーム力を高めしていく。	・保育中のケガが1件発生 ・専門業者による安全点検及び修理の実施 ・交通安全教室12回 ・避難訓練12回 ・防犯訓練 6回	・事故発生をうけ、全職員で園児の安全確保のための反省と課題を話し合い、園児と共に約束を確認し合う機会を持った。 ・各安全教室の後は、反省・評価を行い、次回あるいは次年度への課題をさぐる。	・職員あるいは園児と安全について考える機会を設けたことで、新たなルールができたり、互いに安全を声かけたりできるようになった。 ・毎回の反省・評価の実施が職員の意識の向上を生み、連携の強化に繋がった。



■平成27年度

まちづくり推進部 平鹿地域課

組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況【output+input】		成果分析【outcome】	
				目標指標の内容 (何を)	目標の基準値 (目標設定時の状態・比較実績)	目標達成時期 (いつまでに)	目標値 (どの水準までとする・達成後の状態)	目標達成のための具体的方法 (具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	【現状】		①達成値・実績値 (目標の達成状況・現在の状態)		②取組・行動内容 (目標達成のために 行った取組・行動)
									上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)			
1	平鹿地域課	地域の安全安心を守る運動の推進	A	①交通安全運動の啓発強化 ②防災・防犯運動の啓発強化	①平成26年中の交通事故発生件数29件、傷者39名 ②平成26年度実績 ・防災ハレード:年2回 ・女性消防団住宅防災周知活動:年6回 ・防災ハレード:年7回 ・巡回ハレード:年16回	平成27年度末まで	①交通事故発生件数の減少及び交通事故1,000円達成(達成日:平成27年8月16日) ②火災・犯罪の予防活動の推進	①交通指導隊、交通安全協会、交通安全母の会等との連携強化による交通安全運動の展開 ・街頭指導、広報配布、交通安全教室等の開催及び啓発普及 ②消防団、火災予防組合、防犯指導隊、防犯協会等との連携強化による防災・防犯運動の展開及び巡回ハレード ・関係会議等で「防災(火災報知器設置)」、「安全な雪下ろし」などに基き集落・地区等で防災組織化についての啓発普及を図る。	①交通事故状況等 ・件数19件、傷者25人(前年比:4件、5人増) ・交通事故ゼロ1,000円達成 ・街頭指導、交通安全ハレード55回 ②火災・犯罪の予防活動 ・女性消防団住宅防災周知活動:3回 ・巡回ハレード:2回 ・巡回ハレード:12回	①交通死亡事故ゼロ1,000円を達成したが、交通事故については前年度より増加している。今後も、交通指導隊、交通安全協会、交通安全母の会等との連携強化による交通安全運動の展開を図る。 ・年末の交通安全運動 ・交通安全教室の開催 ②今年度、建物火災は無いが、ゴミ焼却の原因による原野火災で消防車が出動している。消防分署、消防団、火災予防組合との連携強化による啓発普及を図る。 ・女性消防団住宅防災周知活動:3回 ・消防団による防災ハレードの実施 ③防犯指導隊、防犯協会等との連携強化による防災・防犯運動の展開及び巡回ハレード ・ひらか安全・安心ハレードの実施 ・ロックハレード、年末の防犯ハレードの実施 ・のぼり旗の設置、チラシの配布等	①平成27年中の交通事故 ・発生件数27件、傷者40名(前年比:2件減、1人増) ・交通安全運動1,000円達成 ②H27.16達成、現在継続中 ・街頭指導、交通安全ハレード74回 ③平成27年度実績 ・火災ハレード:年2回 ・女性消防団住宅防災周知活動:5回 ・巡回ハレード:7回 ・巡回ハレード:16回	①H27.8.18に交通死亡事故ゼロ1,000円達成表彰式を実施した。関係団体の出席のもと今後も交通安全運動の連携強化を図ることとした。 実施した取組 ・平鹿地域交通安全対策連絡協議会の開催(2回/年) ・交通指導隊による街頭指導、交通安全教室、交通安全ハレード ・各地区交通安全協会の啓発活動 ・交通安全協会母の会による交通安全教室及び啓発活動 ②H27年度は建物火災2件、車両火災1件、その他火災が発生した。その他火災は、野焼きが原因による火災であり地域の消防団、火災予防組合との連携強化による啓発普及を図る。 ・消防分署、消防団と協力して平鹿地域内の住家へ火災報知器の設置状況の確認及び設置の推進に取り組んだ。 ・防犯指導隊、防犯協会等との連携強化による防災・防犯運動の展開及び巡回ハレードを実施した。	①交通死亡事故ゼロ1,000円を達成した。今後も、交通指導隊、交通安全協会、交通安全母の会等との連携強化による交通安全運動の展開を図り交通事故ゼロ1,000円達成を目指す。(達成日H28.12.28) ②今年度は、大きな火災は無いが、野焼きが原因による原野火災で消防車が出動している。消防分署、消防団、火災予防組合との連携強化による啓発普及を図る。 ・火災報知器の設置の推進 ・火災予防の地域内の啓発 防犯については、指導隊、防犯協会等との連携強化による防災・防犯運動の推進を引き続き行う。 ・ひらか安全・安心ハレードの実施 ・啓発のぼり旗の設置、チラシの配布等
2	平鹿地域課	元気の出る地域づくり事業の円滑な実施	A	第2期地域づくり計画における17事業の円滑な実施	・第1期地域づくり計画の継続事業が多い。 ・事業の多くは職員がこなしている。	平成27年度末まで	・事業内容の掘り下げと地域における共助意識の浸透を図る。	・地域への情報提供やサポート体制の強化。 ・地域の魅力を発信し、地域活力を増加させる。	・上半期に計画されている事業は計画通り進められている。 ・9月末現在、地域づくり協議会を2回開催し、前年度の実業検証及び当該年度の事業進捗について協議を行っている。 ・また、ひらか未来塾については各団体との連携を図り、事業の実施が図られている。	・下半期の事業についても進捗状況を確認しながら進めて行く。 ・本年度が地域づくり計画の中間年であり、新しい地域づくり計画を見据えた事業検証が必要と考えている。 ・委員自らが地域興し、地域の活性化について考えており、それを時期地域づくり計画に反映させるために情報提供などきめ細やかなサポートを行っている。	平鹿地域づくり計画3年計画の2年目であり、17件の元気の出る地域づくり事業を進め、年度内に事業を全て完了させた。	交流センター化に向けた市の方針が未確定な為、各公民や地区会議の地域住民に対して十分な説明が出来ず、地域全体での取り組みが出来なかった。方針が決まり次第取り組む意向を出している。	
3	平鹿地域課	吉田地区生涯学習センター及び醍醐公民館の地区交流センター化支援	A	地区交流センター化移行に向けての支援。	交流センター化に向けての運営協議会が立ち上がり、内容協議が進められている。	平成27年度末まで	生涯学習課と平鹿地域課を連携を取り、綿密なスケジュールのもと支援活動を進めている。	・年度は未定だが、両地区の交流センター化に向け、部が一元となった速やかな担当者との打合せ、細かな調整が必要と思われる。 ・各管理施設の点検等を行い、交流センター化に向けた準備を進めて行きたい。	・4月16日醍醐公民館運営協議会、4月17日吉田公民館運営協議会を開催し、上半期の事業を決定し、事業が順調に進捗している。 ・運営についてはそれぞれの地域で考え、地域で行動している。	吉田及び醍醐公民館は平成26年度から試行期間として進めており、各事業は地域運営協議会で協議の図られ、地域としては交流センター化に向けて進んでいる。	吉田、醍醐とも運営協議会で決定した事業を開催し、地域住民との連携が図られ、地域としては交流センター化に向けて進んでいる。		
4	平鹿地域課	地域資源を活用した産業・観光の推進	A	地域特性を活かしたお祭りやイベントの充実及び新たな観光客の取り込み	・各地域と連携したイベントの開催 ・関係機関との企画商品の提案及び実施	平成27年度末まで	・地域ボランティアが積極的に参加できるように環境づくりを進め、協働による地域づくりを推進する。 ・地域の特性を活かしたお祭りやイベントの充実を図る。 ・PR及び消費者への認知を図る。	・地域ボランティアが積極的に参加できるように環境づくりを進め、協働による地域づくりを推進する。 ・各団体、関係機関と連携した企画商品の提案及び実施。 ・イベントを通して農業者、各団体、関係機関と連携した地産商品のPR及び消費者への認知を図る。	・あやめまつり 今年も多くのボランティア協力を得た(延べ142名)。 まつり期間に合わせた旅行企画をJRと協力して実施(JR日帰りバグ計2回108名、JR駅からハイキング計1回40名)。 ・地場産品開発 地域の農産物をふんだんに盛り込んだ「ままけ弁当」を地元元飲食店と開発し大きな反響を呼んでいる。	・JRと連携した旅行企画については、今年度のアンケート結果を基に今後の企画へ反映させる。 ・樹の木ファンタジーの開催に合わせ、建物川・大森・大雄と4地域で連携するスタンプラリーを実施予定。 「ままけ弁当」については、四季箱にメニュー変えてピクニックを獲得するとともに、イベント等での活用をPRする。	○JRと連携した新たな企画商品の実施 ○3地域連携JR日帰りバグ(あやめまつり:2日間 108人参加) ・駅からハイキング回実施(あやめまつり 40名) ○「ままけ弁当」については、あやめまつり開催時に限定販売し、その後平鹿地域内の小学校へ依頼、優秀8作品を表紙デザインに採用し、弁当の内容をもっと好評を得ている。	○イベント関係 ・既存イベント内容等の改善等 ・JR秋田支社への企画商品の提案、調整及び実施 ・幅広く地域ボランティア募集に協力する。 ○消費拡大について ・「ままけ弁当」について、地元飲食店と開発し、表紙パッケージのデザインを平鹿地域内の小学校へ依頼、優秀8作品を表紙デザインに採用し、弁当の内容をもっと好評を得ている。	○イベント関係 ・県内外からの集客力があったものの、今回アンケート結果の意見を基に来年度事業に反映させる。 ・幅広くボランティアを募り、地域の祭りとして意識を高め協働して取り組んで行く。 ○消費拡大について ・「ままけ弁当」について、あやめまつり開催期間(土日のみ)の販売を皮切りに、他の会議、研修等でも取り入れ、地場商品のPRに努めることができた。
5	平鹿地域課	地域の安全・安心な道路環境と公園施設の維持管理	B	道路・公園施設内の不備箇所の早期発見・迅速対応	・定期的な道路ハレード、公園施設巡回(月1回 集中点検実施)	平成27年度末まで	・安全で安心な道路、公園施設の維持管理を図る。 ・市民ニーズを的確に把握し、直営作業を主体に改良、修繕作業を実施	・不備が想定される箇所の事前対応 ・効率的な作業処理 ・管理職による事故防止の徹底 ・要望依頼者と出来るだけ現地での立ち会い詳細の把握に努める	・安全で安心な道路、公園施設の維持管理を図る。(25要望箇所で、20箇所対応済) ・市民地区会議「ハード事業」要望対応予定箇所 18箇所 ・対応済箇所 9箇所 ・昨年年度に引き続き浅舞公園内で松くい虫被害により赤松2本の枯死を発生、倒木の危険性が懸念されることから、伐採処理を行うことについて、9月議会で補正予算を計上。	・道路、公園施設における要対応箇所の改善率については、応急的対応(一時的修繕)も含めて目標を達成した。 ・要望、苦情等の依頼者に対して可能な限り即日の対応を実行した。(連絡、回答含む)	・定期的な道路ハレードと施設巡回により危険箇所・不備箇所の早期発見に努めた。 ・要望依頼者とは、可能な限り直接、現地で立ち会いを願ひ、要望内容の詳細の把握に努めた。	・安全安心な市民生活の基盤となる道路、公園施設の環境が良好に維持されるとともに、初期対応の迅速化・適格化により住民の満足度と市政への信頼度を高めることができた。	
6	平鹿地域課	地域に親しまれる市営温泉施設「ゆづる」の運営	A	地域密着型交流施設の推進 ・利用者数の維持増加	①平成26年度2回実施した自然散策会への参加者は合計89人であった ②地元園児を対象とした自然体験学習では、ほたぎへの植樹作業はできたが、秋の収穫祭開催までにには至らなかった ③食堂部門(テナント)の売上上げが月平均200万円前半にとどまっている	平成27年度末まで	①情報等で広く募集するとともに、これまでの参加者に対し個別に開催通知を発送する ②地元園児団体や地区会議との連携で開催する ③食堂部門と同時打合せを行い、メニュー開発を含めた提言を行う。また、平日の利用促進のため、社会福祉協議会が事業主体となっているミニディナーの売上上げ等でも売上増加を図る	①10月11日実施予定の自然散策会への参加予定数は47人となった。 ②10月20日に醍醐保育園園長園児を対象とした収穫祭(きのこの生育観察、収穫、きのこを使ったメニュー)を実施予定。 ③食堂部門を担うテナントに対し、機会をとらえ随時提言するが、減少傾向にある売上上げに対する危機意識が薄薄であり、目標とする金額への到達は難しい状況である。	①参加者数は1回目43人、2回目45人であった。このほか、それぞれに4人の職員が随行した。 ②地元園児を対象に、ほたぎへの植樹作業を実施する ③今年度11月開催の職場全体会議では、入込客数の推移や現状、売店、食堂の売上上げについての現状分析を行い、課題を出し合い意見交換を行った。また、平日の利用促進のためにミニディナーサービスの受入れを行った。	①市報で広く参加者を募集するとともに、これまでの参加者に対し個別に開催通知を発送した。 ②地元園児団体や地区会議との連携調整を行った。また、ほたぎの生育管理を行った。 ③11月に開催した職場全体会議では、入込客数の推移や現状、売店、食堂の売上上げについての現状分析を行い、課題を出し合い意見交換を行った。また、平日の利用促進のためにミニディナーサービスの受入れを行った。	①これまで年間16回実施しており、リピーターで定着している。事業を通して親しみやすい施設として確立されている。 ②地元保育園の恒例行事になりつつある。収穫祭の写真を館内にパネル掲示し、来客者への事業周知も行った。 ③食堂部門を担うテナントに対し、機会をとらえて提言しているが、テナント側の要望がある中で経営方針まで踏み込むことは難しい状況である。しかし、過去2年間と比較すると売上上げは改善傾向にある。		

■平成27年度

まちづくり推進部 平鹿市民サービス課

組織目標管理シート

No.	課室 所名	目標項目	難易度 (ABC)	目標の内容				目標に対する活動(上半期レビュー)		目標達成の状況【output・input】		成果分析【outcome】	
				目標指標の内容 (何を)	目標の基準値 (目標設定時の状態・比較実績)	目標達成時期 (いつまでに)	目標値 (どの水準までとする・達成後の状態)	目標達成のための具体的方法 (具体的な取組・行動の内容・スケジュールの概要など)	【現状】 上期(4月～9月)の取組実績 (具体的活動・行動)	【ギャップと対策】 下期(10月～3月)に向けた課題と 取組の予定(具体的活動・行動)	①達成値・実績値 (目標の達成状況・ 現在の状態)	②取組・行動内容 (目標達成のために 行った取組・行動)	③目標達成による成果 (目標の達成による効果、 目標達成できなかった事由)
1	平鹿市民サービス課	若い世代からの健康意識を高める	A	血圧値高値者の割合が高いなど平鹿地域の健康課題に沿った健康啓発、保健活動を積極的に展開する	H26年度活動実績 健康相談 720人 健康教育 2569人	年度末	H26年度実績の5%増加 日々の生活の中で健康体を保持するための健康課題を浸透させ、健康寿命を延ばす支援となった。	①各種健康相談、健康教育 ②各イベントにおける啓発活動 ③各団体の研修会・伝達講習の実施支援	・若い世代については、新生児訪問や各乳幼児健診、生活習慣病予防健診時に血圧測定を実施。また個別に血圧管理について保健指導を行った。 ・いきいきサロンや中・小規模健康の駅、特定健診等、各年代に沿った血圧管理について説明・指導を行った。	・10月福祉健康まつり・・・健康啓発活動(ティッシュ、健診動員通知配布) ・11月結核予防婦人会・・・自殺予防研修会(蜘蛛の糸の講演会) ・3月感謝祭・・・健康啓発活動(ティッシュ、健診動員通知配布)	目標値 前年度実績5%増加を達成できた。 健康相談 2721人 健康教育 3049人	健康相談・健康教育の機会を逃さないようにスタッフの日程調整に努め血圧測定や血圧管理保健指導を実施した。 特に若い世代には、新生児訪問や乳児健診時の血圧測定と保健指導の実施や生活習慣病予防健診・特定健診時の健康相談では血圧値に基づき血圧管理指導に力を入れた。 また、高齢者の参加が多い各イベントでは健康相談コーナーを設け、いきいきサロン等では家族の健康管理の一環としての血圧管理の説明保健指導を実施した。	各世代を意識した健康相談・健康教育を実施したことによって、若い世代からの高血圧予防の大切さ、減塩の必要性、自分のみではなく家族の健康が大事な声があり、健康に対する意識づけに繋がったと思われる。
2	平鹿市民サービス課	丁寧で的確な市民サービスの実施	A	①戸籍、住民基本台帳、印鑑登録、臨時運行、国民健康保険、後期高齢者医療保険、国民年金、福祉医療、諸税金に関する事務、消費者行政事務等 ②挨拶と声掛け	①係で作成したチェックリストを活用し、定期的に個人毎のスキルを確認する。 ②来庁者、職員同士の挨拶を大切に。相手に合わせた声掛けをする。	年度末	①主担当は制度の内容を詳しく説明できること。副担当は主担当に代わり窓口受付が可能になること。 ②高齢者や手続き窓口を探しているお客様に積極的に声掛けをして係に誘導するなど、気遣いのできる組織づくりを行う。	①主担当業務は9月と年度末に確認、副担当業務は12月末に確認し、課長に書面にて報告する。 ②係内の行きせや情報交換、仕事を通した交流を重視する。課題は組織で解決し、情報の共有をする。	①新しく配属になった職員に関しては、一つでも多くの窓口受付を正確に出来るように適切な指導すること。2年以上のキャリアがある職員に関しては、通り一遍の作業に終了することが無いよう、自主研修と係内研修の時間を確保したいと考えている。 ②職場であることの配慮を怠ることなく、相互理解に努めつつ仕事に向かっていく体制を整えるよう、声掛けをしていく。	①新たな業務にも積極的に取り組む職員が多かったことから、主・副担当業務のみならず、軽易な窓口業務については全員が対応できるようになった。 ②常に来庁者を意識することができた職員が多く、窓口での声掛けや他課職員への誘導も丁寧に行うことが出来た。	①マイナンバー制度の導入やこれまで窓口で扱われていた確定申告相談業務等が予定されていたため、そこに向けた準備を各々が意識的に行った事が良い結果に結びついた。本庁と連携しながら研修に積極的に参加したことが大きく寄与している。 ②「即対応する心構え」を備えた職員が係を良い方向に牽引してくれた。	①今後は窓口業務イコール「受付作業ができる」ではなく、市民によりよいサービスを還元できるよう、各制度について広く深い知識を得るような時間の使い方が望ましいと考える。	
3	平鹿市民サービス課	職員個々の福祉制度への理解を深め、係全体の対応力を強化し、市民満足度の向上を目指す。	B	・各福祉制度の理解度 ・各種相談への対応能力 ・福祉施策を取り巻く市の現状と国の動向等の理解度	・保健福祉係5名中2名が新任だが、昨年末程度の窓口対応力は維持できている。	年度末	・係全員が各福祉制度を理解し、窓口対応、手続きを流しこなすことができる。 ・困難事例や緊急時に主体的に対応し、内容に応じて関係機関等への橋渡しができる。	・担当業務のローテーションと年度途中での業務分担の見直し。 ・各種相談や訪問は係2名体制で対応し、職員個々の経験値を高める。	・その時々業務量に応じて事務分担を随時見直した。 ・各種福祉に関する相談について、初回相談時に対応した職員が継続して関わるようにした。	・各福祉制度の理解不足から、事務分担による業務量の偏りが解消されていない。また、2名体制での相談等への対応が実施できていない。 ・下期に向け事務分担の見直しとローテーションを更に進める。	・各福祉制度について最低2名以上の職員が窓口対応可能となり、担当不在による窓口業務の滞りは解消されたが、窓口対応以降の事務処理量の偏りが解消しきれなかった。 ・人員的な問題もあり、2名体制での相談対応が実施できなかった	・業務のローテーションと相互に手伝う体制づくり。 ・各種福祉に関する相談を内容に応じて業務分担ごとに対応するようになり、一部職員に偏らないようにした。	・業務分担に応じ相談対応することにより、一定程度は経験値を高めることができた。昨年、相談内容は複雑化しており、困難事例への対応には幅広い福祉制度の理解が必要と感じている。